

# 長期症例に学ぶ パーシャル デンチャー

包括的医療における設計と臨床

中川 昌樹 著

症例分析と補綴設計が  
学べる実践的な成書

貴重な長期症例の数々から症例分析と補綴設計の  
要点を学ぶことができる即実践的なパーシャルデン  
チャーの成書。

著者が提唱する中川の歯式を用いた症例分析法に  
より、欠損補綴分類ごとの補綴設計が示されている。

## 中川の歯式を用いた症例分析法



中川の歯式とは……

欠損歯列のうち臼歯部で  
上下が対向している歯を  
赤色で示した歯式

7 6 5 4 3 2 1	1 2	4 5 6
4 3 2 1	1 2 3 4	

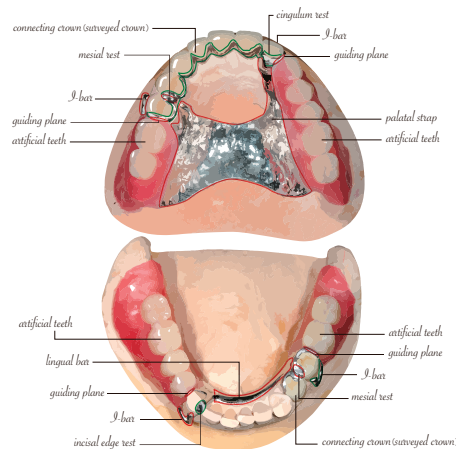
この歯式から読み取れることは何か？

(裏面へ続く)

## 長期症例に学ぶ パーシャル デンチャー

包括的医療における設計と臨床

中川 昌樹 著



QUINTESSENCE PUBLISHING

クインテッセンス出版株式会社



(表面からの続き)

### ■この歯式から読み取れることは何か？

7 6 5 4 3 2 1	1 2	4 5 6
4 3 2 1	1 2 3 4	



## 読み取るべき5つの要素

### ①欠損部位と受圧-加圧要素の関係

両側遊離端欠損。加圧要素は上顎で、ほぼすべての歯が残存している。下顎は両側に欠損があるため、圧倒的に下顎が不利である。加圧要素と受圧要素の差が大きい。

### ②咬合支持数

咬合支持数は2。その部位には義歯の咬合力も加わる。

### ③残存歯の対向関係

上顎残存歯は前歯部が3を除いてすべて存在している。臼歯は第一小臼歯のみが咬合している。そのために下顎前歯による上顎前歯への突き上げが起こる可能性がみえる。

### ④アンテリアガイダンスの有無・状況

3が欠損しているため左側方運動がグループファンクションにならざるを得ない。その結果、4に過大な力がかかることが予想できる。

### ⑤リスク因子

咬合支持を担う4、4には直接維持装置も設置され、義歯からの咬合力も加わる。しかも4は3が喪失しているためガイドの役割も担うことになると、さらに力がかかってしまうことになる。

## 治療方針

4、4は咬合支持に加え、欠損部に隣接するため義歯からの咬合力が最大になり、全歯列の中でもっとも喪失のリスクが高い。そのため、咬合力の分散が必要であると考え、4 3、3 4をそれぞれ連結することとした。4、4には近心レスト、I-bar、ガイドプレーンを設置し、シンプルな設計の義歯とする(義歯の維持装置はシンプルなおぼろが扱いやすく、壊れにくい)。

前歯部は4、4が保存できれば下顎前歯の上顎への突き上げを予防できる。そのため、この症例はその2本への力のコントロールをいかに行うかが最大のポイント。

3が欠損しているため、ガイダンスはポンティックを含めたアンテリアグループファンクションとする。

完成義歯装着  
暫間義歯を用いた顎位補正・咬合挙上、う蝕処置、エクストルージョンによるフェルールの確保など



## このほか、多様な長期症例の分析～設計～治療～経過を解説！



## CONTENTS

- Chapter 1 パーシャルデンチャー臨床の原理と原則10カ条
- Chapter 2 各パーツの設計と果たす役割
- Chapter 3 症例の分析と診断基準
- Chapter 4 欠損の診断と分類および義歯床設計
- Chapter 5 包括的義歯設計と製作のシーケンス
- Chapter 6 症例集—特にハイリスクケースを中心に—

きりとり線

## 注文書

## 長期症例に学ぶパーシャルデンチャー 包括的医療における設計と臨床

モリタ商品コード:208040807

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒 )		
●TEL	●FAX	支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。  
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。